

STAGE+を楽しむ(58)(HP 収載)
—クーベリックのブルックナーとモーツァルト—

1. 始めに

前報(55)に引き続き、STAGE+のクーベリックのブルックナーとモーツァルトの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、クーベリックが振るブルックナー「ロマンティック」とモーツァルト「プラハ」というアルバムの演奏を選びました。

クーベリックが振るブルックナー「ロマンティック」とモーツァルト「プラハ」

収録日: 1971年1月14日

今なお高い人気を誇るチェコの名指揮者ラファエル・クーベリックの活動が本格化したのは、1961年にバイエルン放送交響楽団の首席指揮者に就任してからでした。1979年までの任期中に同楽団とドイツ・グラモフォンを中心にレコーディングを行い、数々の名盤を生みましたが、1971年にウィーンフィルを指揮してブルックナーとモーツァルトの名交響曲を演奏したこちらの映像も必見です。クーベリックらしい誠実でバランスのとれたアプローチの仕方、伸びやかに洗練された響きを構築していく様子をご堪能ください。

演奏:

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

ラファエル・クーベリック

曲目:

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

交響曲第38番ニ長調 K. 504 《プラハ》

アントン・ブルックナー 交響曲第4番変ホ長調 《ロマンティック》



3. 試聴の経過

クーベリックはアナログ時代から慣れ親しんだ指揮者です。そのクーベリックがウィーンフィルを指揮した映像が残っているということで試聴しました。

上記2曲ともお馴染みの曲ですが、1971年の収録ですので、最近の収録に比べると音質、画質も劣り、特にレンジの狭さを感じられることはやむをえません。

しかしながら、《プラハ》では、クーベリックの端正で流れるような指揮の下、ウィーンフィルらしい優雅なモーツァルトです。

《ロマンティック》でも、名のとおり流麗でロマンティズムに溢れた演奏です。終章の盛り上がりもウィーンフィルらしい中低域の厚みと響きの良さが感じられます。

《ロマンティック》はベーム指揮ベルリンフィル盤がありますが、構成のしっかりしたベーム盤と好一対をなす演奏です。



4. まとめ

以上の STAGE+配信は、追加の LAN iSilencer の効果も加わって、レンジの狭さはありませんが、クーベリック指揮ウィーンフィルらしい味わいで鑑賞できました。

以上